

# Stackelberg mixed competition with a foreign joint-stock firm

大西一弘 (Kazuhiro Ohnishi)

Osaka University, ph. D.

ohnishi@e.people.or.jp

2012年6月9日(土)

日本国際経済学会関西支部研究会

## 論文概要

本論文は、国内の公企業および外国のジョイント・ストック企業が存在する国際混合市場モデルを分析する。公企業は国内の経済厚生最大化を、そしてジョイント・ストック企業は資本単位当たりの利潤最大化を目的として行動する。両企業は戦略的企業行動として賃金増額契約を採用することを容認される。企業が賃金増額契約を採用するならば、その時、その企業は生産量水準と割増賃金率を決定し、そして現実はその生産量水準より多く生産するならば、すべての従業員に一律に割増賃金を支払うことに同意する。即ち、企業が賃金増額契約を採用するならば、その生産の限界費用は増加することになる。

本論文のモデルでは、国内の公企業は外国のジョイント・ストック企業に対してシュタッケルベルグ・リーダーとして戦略的行動を採用することができる。モデルの3段階は次のようになる。第1段階において、公企業は戦略的企業行動として賃金増額契約を採用するかあるいは採用しないかを決定する。第1段階の終わりにおいて、外国のジョイント・ストック企業は公企業の行動を知る。第2段階において、外国のジョイント・ストック企業は戦略的企業行動として賃金増額契約を採用するかあるいは採用しないかを決定する。第2段階の終わりにおいて、公企業は外国のジョイント・ストック企業の行動を知る。第3段階において、両企業は同時にそして独立に生産量を選択する。

本論文は、このモデルにおいて公企業はシュタッケルベルグ・リーダーとして賃金増額契約を採用することができるにもかかわらず、均衡は外国のジョイント・ストック企業がシュタッケルベルグ・リーダーそして公企業がシュタッケルベルグ・フォロワーであるところになることを示す。更に、本論文では、均衡において、国内の経済厚生は賃上げ契約のない同時手番生産量選択ゲームにおいてより小さく、そして外国のジョイント・ストック企業の資本単位当たり利潤は賃上げ契約のない同時手番生産量選択ゲームにおいてより大きくなることを示す。結果として、公企業と外国のジョイント・ストック企業の国際混合複占モデルの分析の中への戦略的コミットメントとしての賃上げ契約の導入は、外国のジョイント・ストック企業のためにのみ有益であるということが明らかにされる。